

## 区分：人文・社会科学

授業科目名	社会と歴史（長崎大学史からみる日本近現代）				学期	曜日	校時
英語名	Society and History (Japanese Modern Times in the History of Nagasaki University)						
担当 教官名	井手弘人	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	金曜日 校時
<b>授業のねらい・内容・方法</b>							
<p>みなさんは長崎大学を他の人に説明するとしたら、どのように説明しますか。この授業では、<b>長崎大学を社会との接点から歴史的に説明できるようになることを第一目標</b>とします。まずはみなさんの所属している長崎大学は歴史的にどういう役割を担って設立され、社会とどのような関係のもとで発展してきたのかを理解していきましょう。</p> <p>また、今この瞬間にも長崎大学の歴史は創られています。長崎大学で今学んでいるみなさんは、新しい歴史が作られている瞬間と全く同じ時間に学生生活を送っています。長崎大学史を創っている一員として、<b>今後の大学生活を通してどういう人物として将来社会との接点になっていこうと思うか、自分なりに言えるようになることをこの授業の第二目標</b>とします。</p> <p>この授業は長崎大学から社会をみつめ、そして自分自身をみつめる時間にしていきます。</p>							
<b>テキスト、教材等</b>							
<p>授業の最初に教材（コースパケット）を配布します。授業はコースパケットに沿って進行していきます。参考図書は授業中に適宜示していきます。</p>							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	授業の中間部（11月14日）に出される中間レポート(40%) 授業終了後（1月30日）に出される最終レポート（40%） 授業内での発表、ディスカッション（20%） の3点で評価を行います。						
<b>授業計画</b>							
<p><b>第1部：日本近現代史と長崎大学の発展過程との関係を考えよう</b></p> <p>第1回（10/3）：授業内容の説明／イントロダクション：長崎大学の理念と「シブマーク」                  第2回（10/10）：文明開化と日本型大学システムのはじまり - 幕末～明治20年代 -                  第3回（10/17）：九州「帝国大学」争奪戦 - 明治30～40年代 -                  第4回（10/24）：帝国主義国家としての高等教育システムの展開 - 大正～昭和初期 -                  第5回（10/31）：戦時体制中の高等教育 - 昭和10年前後～昭和20年 -                  第6回（11/7）：高度経済成長と新制大学の役割 - 昭和20年～昭和後期 -                  第7回（11/14）：情報社会、新たな役割を模索する大学 - 現代 -</p> <p>（中間レポート：長崎大学と社会とのつながりを、歴史的な見方からまとめてもらいます）</p> <p><b>第2部：各学部と社会の接点を歴史的な観点から考えよう</b></p> <p>第8回（11/28）：日本社会の中から見た各学部のあゆみ(1)                  第9回（12/5）：日本社会の中から見た各学部のあゆみ(2)                  第10回（12/12）：国際社会の中から見た各学部のあゆみ(1)                  第11回（12/19）：国際社会の中から見た各学部のあゆみ(2)                  第12回（1/9）：地域社会の中から見た各学部のあゆみ(1)                  第13回（1/23）：地域社会の中から見た各学部のあゆみ(2)                  第14回（1/30）：総括ディスカッション：2014年の長崎大学を考える</p> <p>（最終レポート：自分の所属する学部の位置づけを歴史的な観点でおさえながら、自分が長崎大学で今後何を学び、どのような社会の一員として活躍していこうと思うかを述べてもらいます）</p>							